

要求
実現へ

一点共同を広げよう!!

H25年度決算審査委員会が閉会しました。日本共産党を代表し質疑した小田桐たかし市議の論戦で、要求実現へ一歩前進です。質疑を聞いていた他党からも「山が動いた」との声が届いています。

小児甲状腺エコー検査への一部公費助成

「議会総意であれば、重く受け止める」市長答弁

福島原発事故以降、『放射能ホットスポット』となった流山市。市民の不安解消にこれまで努めてきましたが、子どもの甲状腺エコー検査への公費負担に限っては、拒否し続ける井崎市長。

小田桐市議は、「市長が後ろ向きでも、放射能測定の実施、農産物測定の強化、学校等の除染は地上高さ5^m、公費負担による私立保育園・幼稚園の除染、焼却灰の建屋保管、対策室廃止撤回と実現にこぎつけさせたのは議会。この経過から、議会半数が求めれば、拒否しないか」と追及しました。

市長は「議会総意であれば重く受け止める」と答弁しました。

リフォーム助成制度の創設

「住み替え制度には」役に立つ」と市長答弁

戸建やマンションでも、店舗でも、今、長寿命化や安全安心、効率性などの理由から『リフォーム』への関心が高まるなか、小田桐市議がH15年9月議会で『リフォーム助成』を初質問。連続した提案に、担当課も副市長も効果は認めるものの、市長が首を縦に振りません。

一方、井崎市長は、H25年度に7回の勉強会を実施し、『住み替え促進制度』を後押しする組織を立ち上げました。小田桐市議は、「市長の住み替え制度にとってリフォーム助成はマイナスなのか」と提案。市長は「住み替え制度にとって役立つ」と初めて答弁しました。

市内農産物の学校給食現物給付

「担当課へ調査を指示した」副市長答弁

子どもの貧困対策の一つとして、と副市長が答弁しました。学校給食費助成等を提案した小田桐市議に、「市内産農産物の学校給食利用を促進するよう指示した」期待がもたれます。



日本共産党市議会議員

小田桐たかし